

「(J Aと共に)現場に向き、担い手や地域の声に耳を傾け、課題や要望にできるだけ応えていきたい。近くに来た際は、ぜひお立ち寄りを」。J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターの阿部芳徳監理役が力を込めた。若い村形康太さんが、J Aグループ新規就農応援事業について説明し、引き続き積極的な活用を熱く呼び掛ける。

大江町OS I Nの会に初出席

大江町中央公民館で13日に開かれた町就農研修生受入協議会(OS I Nの会)の2017年度総会。サポートセンターの職員が初めて出席した。2人とも、新調されたばかりのセンター統一の作業着姿。現場に寄り添う姿勢を示す。

就農研修生と受け入れ農家をつくるOS I Nの会は13年4月に設立。町やJ Aさがえ西村山などが支援し、これまで9人が独立就農を果たした。耕作面積は14畝を超え、耕作放棄地解消や町の人口増にも貢献。17年度も渡辺誠一会長(51)ら11戸の農家が、東京都出身の萬利乃光康さん(37)ら5人の研修生を受け入れる。

「現場に出向く」強調

阿部さんと村形さんは「情熱と活力を感じた」と話し、今回の出席を機に、支援の力を入れていく考えを新たにしました。



「サポートセンターをよろしく」とあいさつする阿部監理役(後列右から2人目)と村形さん